

事前の備え

避難場所の確認

それぞれ災害の種類に分けて避難場所を決めておきましょう。

水害・土砂災害の場合
避難場所が浸水想定区域や土砂災害区域に入っていないか確認しておきましょう。



地震災害の場合
集会所の駐車場やグラウンドなど安全な広場を避難場所として決めておきましょう。



危険箇所の把握

集落ハザードマップの確認や気づきマップ作りを通じ、集落内の危険箇所を把握しておきましょう。

マップ作りの様子



まち歩きで確認



安否確認

集落で住んでいるかたの無事を確認するために、あらかじめ住んでいるかたを把握しておくことが大切です。また地震の場合は、早急な対応が必要ですので、あらかじめ名簿の作成など行っておきましょう。

名簿の作成

氏名	状況	〇〇隣保
〇〇宅	高齢者 1 名、大人 2 名、子供 2 名	
△△宅	高齢者 2 名	

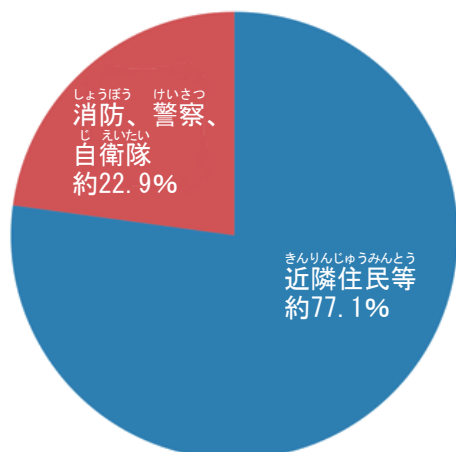
安否確認（訓練の様子）



豆知識

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数

平成 7 年の阪神・淡路大震災で、地震によって倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約 8 割が、家族や近所の住民等によって救出されており、消防、警察及び自衛隊によつて救出された人は、約 2 割であるという調査結果があります。



阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体など

別の調査では、自力で脱出したり、家族、友人、隣人などによって救出された割合が約 9 割を超えており、救助隊によって救助されたのは 1.7% であるという調査結果もあります。

